

あなたと、あなたの大切な人を守るために

大腸がんの検診を

受けてください

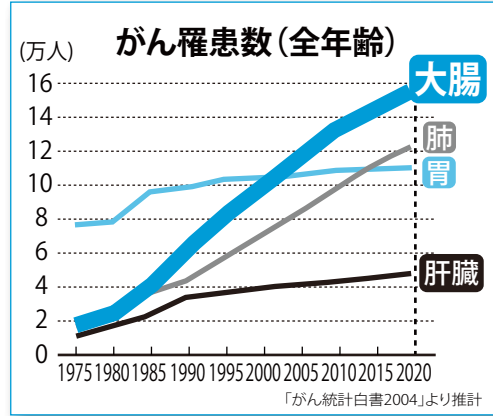
食生活の変化などにより、最近、増え続けている「大腸がん」。早期に発見し治療すれば、ほぼ完治できます。あなたと、あなたの大切な人を守るために、まずは検診を受けましょう。

01 増え続ける大腸がん

現在、日本では3人に1人ががんで亡くなっています。敦賀市の死因第1位もがんによるもので、平成19年には、全死亡者の約27%の方ががんで亡くなっています。

特に、大腸がんの死亡者数は、この20年で2倍以上に増え続け、現在では、女性のがん死亡原因の1位となっています。また、2020年までの予測では、男女を合わせた日本人のがん罹患

図1



02 40歳を過ぎたら要注意

大腸がんは男女とも40歳代から罹患率が上昇し始め、高齢になるほど高くなります(図2)。また男女別では、男性の方がかかりやすい傾向がみられます。

40歳は大腸がん発生の危険年齢と言われています。男女を問わず、40歳を迎えたら必ず定期的に検診を受けましょう。

図2

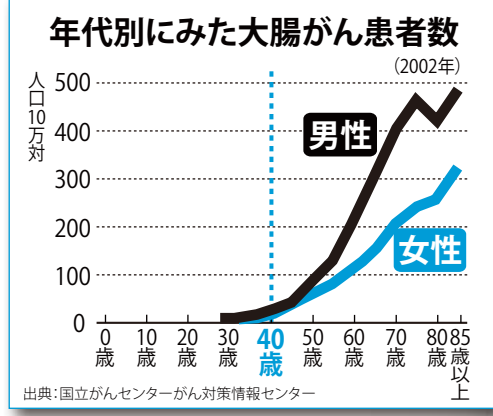


図3

大腸がん検診の受け方 (便潜血検査)

1 検査容器をもらう

健康管理センターまたは各がん検診・健診会場 公民館

- ◆対象 40歳以上
- ◆料金 500円
- ※70歳以上は無料

2 自宅で便を採取

2日間に分けて採取
便の表面を満遍なくこすりとり



3 容器を提出

健康管理センターまたは各がん検診・健診会場
◆提出期間 9/1～12/18

4 検査結果が出る

陽性…病院で精密検査を受ける
陰性…今回は異常はないが、定期的に検診を受ける

03 早期発見・早期治療で ほぼ100%完治

大腸がんは、早期に発見すれば、ほぼ100%治すことができます。しかし、発見が遅れば、肺、肝臓、リンパ節などに転移し、治療が困難になります。早期の大腸がんは、自覚症状がほとんどありません。手遅れになってしまわないように、定期的に検診を受けることが大切です。



04 大腸がん検診って 簡単!

大腸がんの検診では、便に混じった大腸からの出血を調べる「便潜血検査」を行います。便の採取は自宅ででき、検査前の食事制限もない簡単な検査です(図3)。検査は簡単ですが有効性は高く、症状のない方が毎年検診を受けていれば、大腸がんで死亡するリスクは60%も低くなると言われています。

私は早期の受診で助かった！ ～体験者の声～

Aさん

57歳 男性

妻のすすめで検診を受けました。最初の年の受診では異常なしでしたが、次の年の受診で、精密検査が必要との結果が出ました。後日精密検査を受けたところ、ポリープが4箇所みつかり、そのうちの1箇所が悪性で大きいものでした。それを内視鏡で切除し、退院した後、残りのポリープを切除しました。現在は経過観察中ですが、仕事も以前と同じようにしています。

大腸がん検診の受診前には、ほとんど自覚症状はありませんでした。だから精密検査が必要という結果が出たときは、とてもびっくりしました。しかし、早期の段階でみつかり、早く手術することができたので本当に良かったです。命拾いしたと思っています。大腸がん検診は検便でできる簡単な検査なので、おすすめしたいです。この体験をした後、自分も周りの人たちにすすめています。

Bさん

65歳 女性

知人が大腸がんで亡くなったこともあり、心配になり、すぐに市のがん検診を受けました。検査の結果、精密検査が必要ということで、すぐに病院を受診しました。精密検査では、ポリープが2箇所みつかり、しかも悪性のものだったので、内視鏡での検査中にそのまま切除し、入院となりました。その後は経過良好で、医師からは、今後も定期的に検診を受けるように言われています。

「あなたのようにこんなに早くに見つかるのは、10人に1人か2人で、とてもラッキーだ」と医師に言われたように、自分でも検診を受けて思い切って早く行動して、本当に良かったと思います。時期が遅かったら、もっと進行して手遅れになっていたかもしれません。大腸がん検診は昔に比べ容器も改良され、簡単にできる検査です。みんなもっと受診すればよいのにと 생각합니다。

